

アラカルト 育 水 医 療 シニア 食・エコ 旅・趣味 スタイル

従来のマンモグラフィーの特徴と 造影マンモグラフィーに期待されること

- 従来** 異常があるかどうかの「存在診断」
 - がんに特徴的なぎざぎざの形状を伴う腫瘍、微細な石灰化、ゆがみやひきつれ（構築の乱れ）の検出
 - 造影** がんの「広がり診断」
 - がんの「広がり診断」
- （水谷三浩・三河乳がんクリニック院長のまとめから抜粋）

2画像重ねる

次に、従来のマンモ

造影剤は血流の豊富な組織に集まるため、がんがあれば、そこに造影剤が集積することになる。

検診で広く使われているマンモグラフィー（乳房エックス線撮影装置）は、乳がんを早期発見するための有力手段だが、若い女性に多い乳腺密度の高い乳房では、乳腺の影に紛れてがんが見えにくいという大きな弱点があった。最近、乳腺が高密度でも病変を鮮明にとらえる新技術「造影マンモグラフィー」が開発され、国内医療機関でも導入が始まった。

新技術「造影マンモグラフィー」国内に導入

白い影が隠す ごく早期のがんを発見できる可能性があり、欧米では乳がんによる死亡者数を20〜30%減少させたと報告されている。

マンモグラフィー検査は、2枚の板の間に乳房を片方ずつ挟んでエックス線を照射。組織ごとのエックス線吸収の違いを利用し、乳房内の様子を画像化する。腫瘍はやや白い塊として、カルシウムが沈着した「石灰化」は白い砂粒のような影として映し出される。腫瘍がぎざぎざの凹凸のような形状を伴っていたり、微細な石灰化が一方所にたくさん集まっていたりした場合、あるいは「構築の乱れ」と呼ばれる組織のゆがみやひきつれが見られる場合にはがんが疑われる。

病変映す

乳腺高密度でも

乳がんの見逃し防止へ 悪性鑑別できる可能性

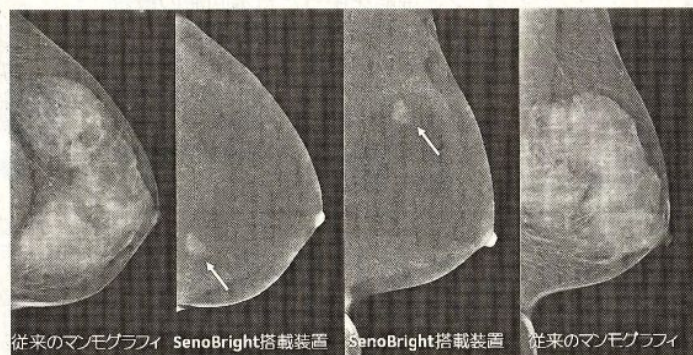
造影剤の注込み時間は撮影に要する時間も10分程度。被曝線量は通常の撮影より2割ほど増えるが、マンモグラフィー撮影の国際的な指針値は下回るといえる。

発売前に先行導入した三河乳がんクリニック（愛知県安城市）の水谷三浩院長は、有用性は異常の検出だけでなく、良性か悪性かの「鑑別診断」や、病変の「広がり診断」にも及ぶとみる。

「例えば構築の乱れは従来のマンモグラフィーでも鮮明に映すが、良性か悪性か

MRIの領域

造影剤を使うため、一般の検診ではなく、ほかの検査で異常を指摘された人や、若年で発症する遺伝性乳がんの危険がある人への使用が想定される。従来、磁気共鳴画像装置（MRI）が担ってきた領域だ。MRIは検査費用が高く時間もかかるが、設置施設も限られるため、造影マンモグラフィーへの期待は大きい。



乳腺密度の高い乳房の症例写真。従来のマンモグラフィー（左端と右端）では乳腺に重なって見えにくかった病変部が、造影マンモグラフィー（中央の2枚）では鮮明に映し出された（矢印）。（水谷三浩・三河乳がんクリニック院長提供）